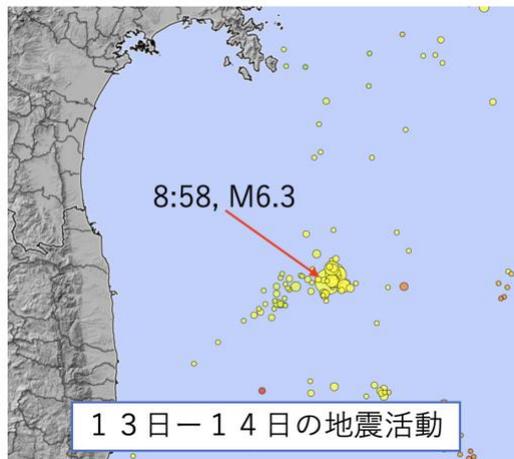


**やはり東北地方(特に宮城県沖・福島県沖)の地震活動が高まっているようです**

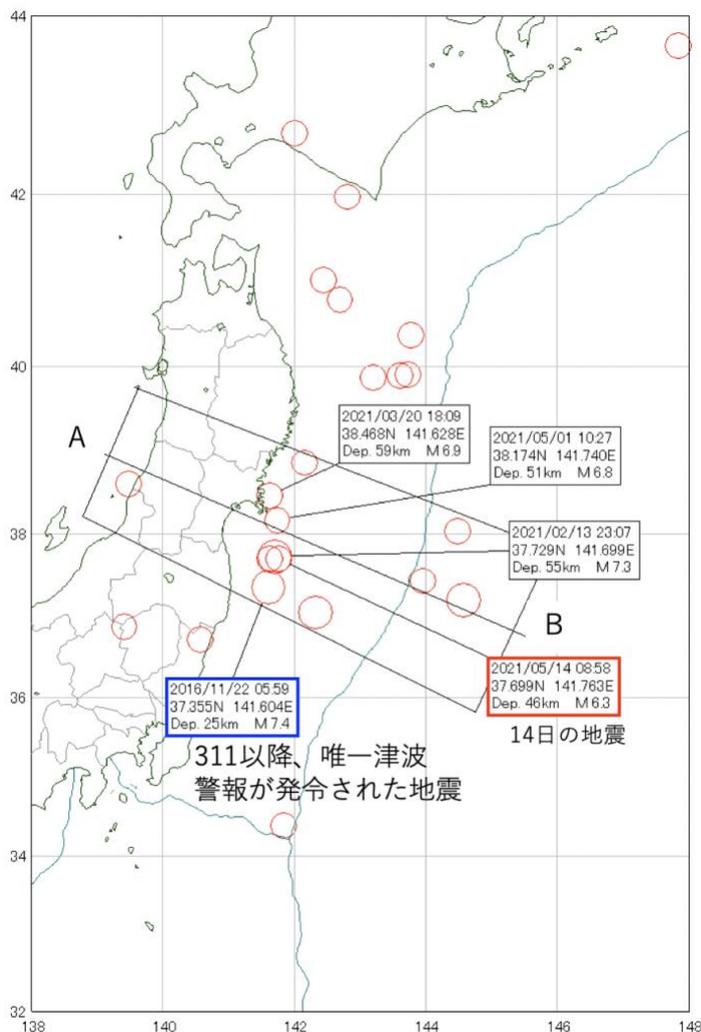
先週号でお知らせした東北地方海域に特化した解析では、青色の静穏化異常も赤色の活発化異常も顕著な異常としては観測されていません。しかし、5月14日にも宮城・福島県沖でマグニチュード6.3の地震が発生し、震度4を観測しました。下の図は震度分布(左)と気象庁ウェブサイトによる、微小地震まで含めた震源分布(右)です。この地震は東日本大震災と同じ、逆断層型の地震でした。興味深いのは東北東から西南西に並ぶ地震活動が発生している事です。

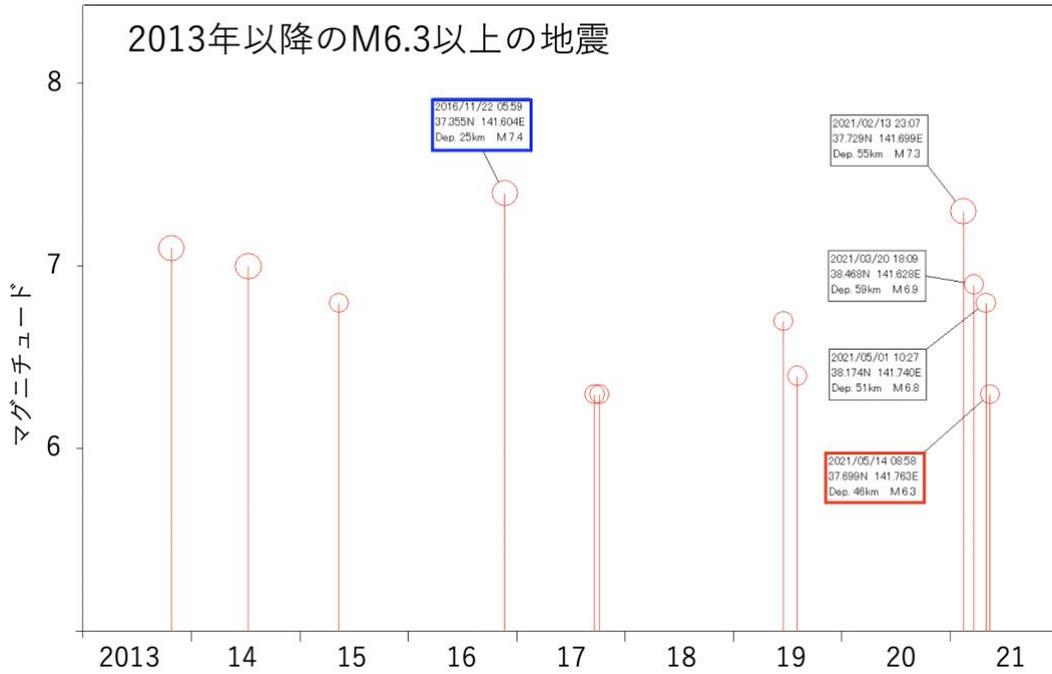


2月以降、明らかに東北地方、特に宮城県沖、福島県沖での地震活動が活発化しています。右側にお示しする図は、2013年以降に東北沖で発生したマグニチュード6.3以上の地震です。青枠で囲った地震が東日本大震災以降、唯一津波警報が発令された地震です。2021年に入って発生したマグニチュード6.3の地震以降は、海岸付近の近い領域で発生している事がわかります。そのため、太平洋プレートの沈み込みがこのあたりでは50-60kmの深さにまで到達しており、結果としてこの震源の深さが、津波が発生しづらいという状況を生んでいます。これは津波が発生するためには、断層運動が海底面まで到達する事が必要なためです。

次のページにお示しする図は図中で斜めの四角で囲った領域で地震がどのような時期に発生したかを示した図です(時系列)。

2021年になり、たて続けにマグニチュード6を超える地震が海岸近くで発生している事がわかります。

2013年以降のM6.3以上の地震

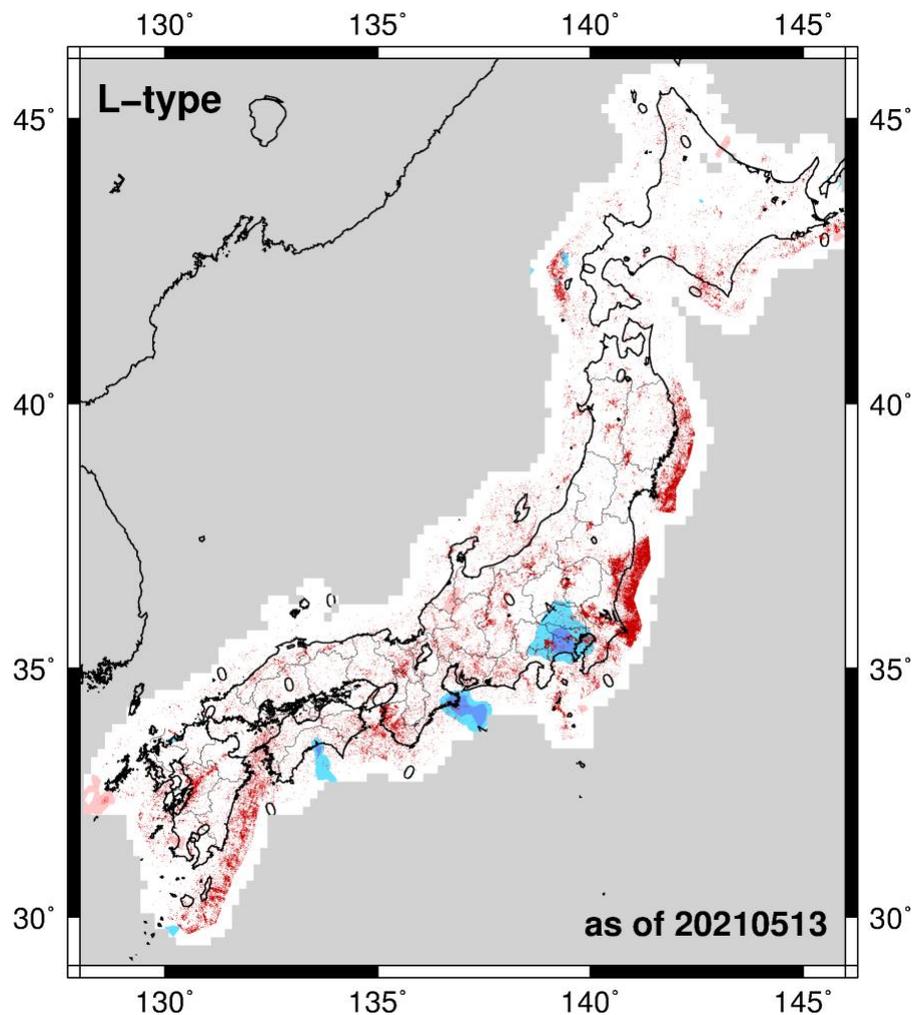


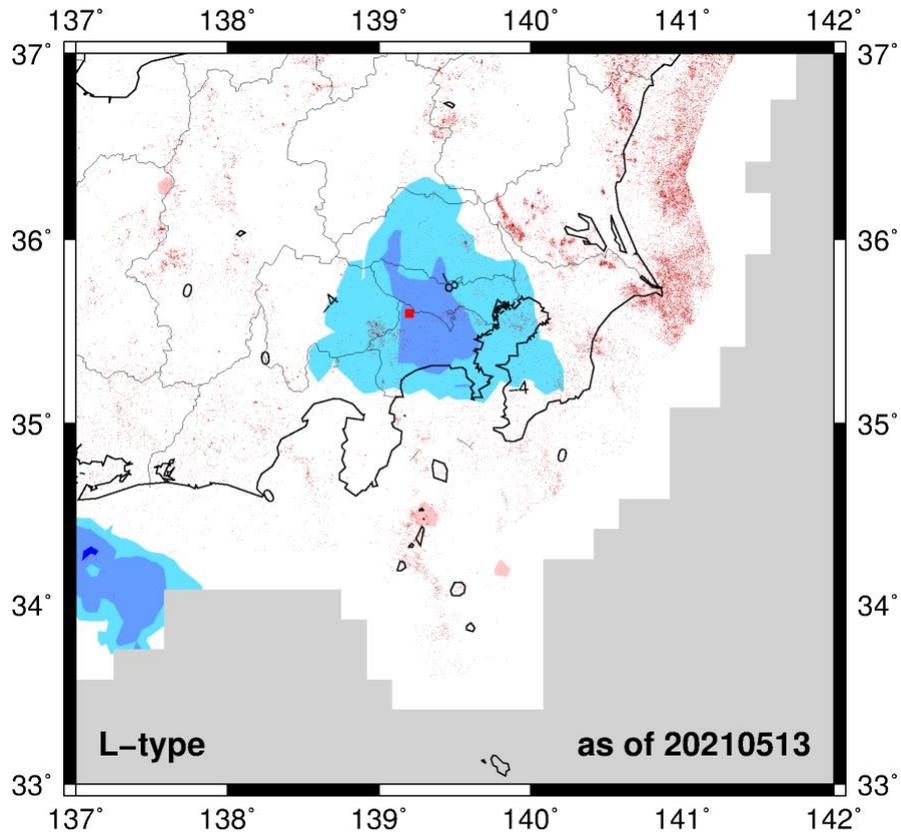
日本列島陸域の地下天気図®

4月12日のニュースレターに引き続き、日本列島の陸域に特化した地下天気図解析です。今週は5月13日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。この地下天気図解析では対象マグニチュードM6からM7程度の地震と考えています。

基本的なパターンは4月12日に報告させて頂いたものと大きく変化していませんが、愛知県・三重県沖の異常が少し目立つようになりました。南関東に広がる地震活動静穏化領域が最も気になる静穏化である事は変わりありません。今回の解析でも関東地方の静穏化はまだ進行中である事がわかりました。

次のページに関東地方の拡大図をお示しします。





次のグラフは上の図中で■で示した地点(神奈川—東京の境界)の時間変化グラフです。消長を繰り返しながら、静穏化が継続中である事がわかります。過去の経験則では、静穏化の異常が解消してから地震が発生したケースが多いですが、2018年の大阪北部地震のように静穏化の異常継続中に地震が発生するケースも過去には存在する事にご留意下さいませ。

